

第28回政策本会議は、さる8月24-25日にインドネシア・バリ島で開催された「東アジア・シンクタンク・ネットワーク（NEAT）」の第6回年次総会および第9回国別代表者会議に出席した日本代表団団長の伊藤憲一議長およびその他4名の団員を報告者に迎え、「NEATインドネシア総会を総括する」と題し、開催された。その概要は次の通り。

1. 日 時：2008年9月19日（金）午後2時より午後4時まで
2. 場 所：日本国際フォーラム会議室
3. テーマ：「NEATインドネシア総会を総括する」
4. 出席者：下記の通り13名（○印は発言者）

報告者：○伊藤 憲一 当評議会議長・日本国際フォーラム理事長  
 ○小笠原高雪 当評議会有識者議員・山梨学院大学教授  
 ○進藤 榮一 当評議会副議長・筑波大学大学院名誉教授  
 ○廣野 良吉 当評議会副議長・成蹊大学名誉教授  
 ○村上 正泰 当評議会常任副議長・日本国際フォーラム所長

出席者：〔副議長〕 [有識者議員]  
 ○黒田 眞 安全保障貿易情報センター理事長 ○石垣 泰司 東海大学法科大学院非常勤教授  
 ○西原 正 平和安全保障研究所理事長 [ゲスト]  
 ○畠山 襄 国際経済交流財団会長 ○石川 和秀 外務省アジア大洋州局審議官  
 〔シンクタンク議員代理〕 ○伊藤 康一 外務省アジア大洋州局地域政策課長  
 福永 一樹 行天豊雄国際通貨研究所理事長代理 根本 貴章 外務省アジア大洋州局地域政策課事務官

#### 5. 概要

冒頭、席上配布された資料「NEAT第6回総会・第9回国別代表者会議報告書」（別添参照）に沿って各団員から報告がなされた。村上正泰副議長より「第I部：概括報告」について報告がなされた後、「NEATにおいてわが国の果たしている役割は大きく、東アジア共同体をめぐる議論にわが国がしっかりと関与し続けることの重要性を痛感した。『政策提言メモランダム』に普遍的価値を盛り込むことに異論が出なかった背景には、普遍的価値の重要性が浸透してきたということに加え、日中関係の改善も影響しているのではないか」（小笠原高雪有識者議員）、「昨年と比較して、NEATは着実に前進していると実感した。もはや理念論の議論はほとんどなく、それを当然の前提として実態論の議論へと深化してきている。そこには日中協力の進展の成果が反映されているという印象を持った。ただし、韓国の存在の弱さが気になる。来年は韓国で開催されるので、もう少し新しい形での対応を期待したい」（進藤榮一副議長）、「環境協力作業部会で、途上国にとって厳しい内容を含む8つの提言をまとめたが、すんなりと受け入れられたことに驚いている。中国側が日本側の発言を高く評価していたが、この背景には日中関係の改善だけではなく、日本の協力なくして何もできないという中国国内の問題もあるのではないか。韓国の存在感が薄かった一方、ASEAN諸国が積極的に発言するのは、ASEAN共同体を作る上で+3の協力が必要だと言う時だけで、東アジア共同体構想はASEAN共同体を強化する上での道具として見ているとの印象を持った。各国代表団の人選に関して基準や共通の理解を設けることが必要ではないか。NEATの活動の実効性を高めていく上では、最近発足したERIA（東アジア・ASEAN経済研究センター）との相互補完性を高めていくことも考えるべきである」（廣野良吉副議長）との報告があった。

これに対して、石川和秀外務省アジア大洋州局審議官から「大変興味深い議論をしていただいております、協力に感謝する。国際社会における発言力の一つの要素は、知的な発想とそれを伝達する能力であるが、日本はG8等で過去何十年にもわたりグローバルな場で発言する訓練を受けてきたので、日本全体としての知的発言力は高くなってきたと考える。そうした日本の経験も活かしながら、東アジア全体の知的対話のレベルを上げていく必要がある。その最前線で活動しているのがNEATである。提言は日本政府内でも関係省庁と共有し、政府として検討していきたい。」、伊藤憲一議長から「NEATの各国出席者は、各国政府がベストだと思って人選した人たちであり、だからこそ、APT域内における認識共同体（Epistemic Community）のコンセンサス形成に寄与している。そもそも学会とは目的や性格が異なるので、出席者の資格要件のような基準を設けると、NEATの存在理由を自己否定することになるのではないか」とのコメントがあった。その後、出席議員の間で活発な意見交換が行われた。（文責事務局）

別添：「NEAT第6回総会・第9回国別代表者会議報告書」